

# NEWS LETTER

## 横浜災害ボランティアネットワーク会議



編集・発行：横浜災害ボランティアネットワーク会議

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1 横浜市健康福祉総合センター8階

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会内

TEL 045-201-8620 FAX 045-201-1620

E-mail: saivol@yokohama-saigai-vol-net.jp

2014年3月発行 No.50

報

告



### 横浜市災害ボランティア支援センター設置・運営に関する協定書を、新たに締結しました。

横浜市防災計画【震災対策編】(平成25年3月)、横浜市災害ボランティア支援センター設置・運営マニュアル【第2版】(平成25年6月)の内容をふまえ、横浜市・横浜災害ボランティアネットワーク会議・社会福祉法人横浜市社会福祉協議会(以下、「三者」とする)を締結者とする、「横浜市災害ボランティア支援センター設置・運営に関する協定書」を新たに締結しました。

#### 協定書の内容

横浜市災害ボランティア支援センター設置に関する協議や要請に関する事項、設置場所や経費負担、資器材等の確保に関する事項等を事前に定めている。

#### これまで

##### ①「横浜市災害ボランティアセンター設置・運営に関する協定書」

締結日：平成19年3月1日

締結者：横浜市・横浜災害ボランティアネットワーク会議

##### ②「横浜市災害ボランティアセンター設置・運営に関する覚書」

締結日：平成19年3月1日

締結者：横浜市・社会福祉法人横浜市社会福祉協議会

#### 新たな協定書

名称の変更、①・②の内容を1つの協定書に統合

##### 「横浜市災害ボランティア支援センター設置・運営に関する協定書」

締結日：平成26年3月11日

締結者：横浜市・横浜災害ボランティアネットワーク会議・  
社会福祉法人横浜市社会福祉協議会

#### 協定書を三者で締結した理由

- ①横浜市災害ボランティア支援センターの設置・運営を円滑に行えるよう、三者の役割や位置づけを明確にする。
- ②災害時の役割をもとに、平常時から三者の顔の見える関係作りを推進する。

## 活動紹介

## 各区での災害ボランティアに関する取り組み

## 港南区

災害ボランティアセンター体験  
～災害時ボランティア派遣訓練～

2月14日(金)に、港南区災害ボランティアネットワークと港南区社会福祉協議会が主催し、港南区福祉保健活動拠点にて「災害ボランティアセンター体験」を実施しました。

災害時ボランティア派遣訓練と同時に、NTT災害用伝言ダイヤル(171)体験も行い、大雪にもかかわらず約30名の参加がありました。

災害ボランティアセンター体験では、①オリエンテーション②受付③活動選択(マッチング)④送り出し・物資管理⑤報告受付⑥ニーズ受付⑦庶務等の7つの役割に分け、それぞれに区災害ボランティアネットワークメンバーと区社協職員を配置しました。それをもとに、ボランティアの受付・活動・報告・依頼の受付等の訓練が行われました。

## 訓練の様子



## 都筑区

## 都筑区災害ボランティアセンター運営訓練

1月25日(土)に、都筑区役所、都筑区社会福祉協議会、都筑区災害ボランティアコーディネーター、都筑区地域防災拠点運営委員、その他福祉施設関係者が参加し、災害ボランティアセンター運営訓練を実施しました。

今回の訓練は、地域防災拠点と災害ボランティアセンターとの連携に特化し実施されました。区役所の協力もあり、地域防災拠点運営委員会研修として位置付けられたことで、計132名もの参加がありました。

地震発生から7日目を想定し、①地域防災拠点から災害ボランティアセンターへ依頼→②ボランティアの派遣→③地域防災拠点での活動→④災害ボランティアセンターに戻って活動報告までの一連の流れに沿って実施しました。あわせて、区役所のボランティア班との連携を確認する訓練も行われました。

## 訓練の様子



## 実施報告

## 区災害ボランティアネットワーク ブロック別連絡会

## 全体説明会



横浜市内を4ブロック（下記参照）に分け、各区災害ボランティアネットワークを対象に、「区災害ボランティアネットワークブロック別連絡会全体説明会」を1月15日（水）に開催しました。

近隣区同士の日常的な連携を目的に、各ブロックで開催する連絡会の内容や開催頻度等について検討しました。

## 各ブロック別連絡会

全体説明会を受けて、各ブロックにて連絡会を順次開催中。

各ブロックおおむね年3回程度を目標に開催予定です。

各区の取組への相互参加や災害時における協力方法等、今後の具体的な連携方法について話し合いを行っています。



Aブロックの様子

## 参考：市内4ブロック

- Aブロック  
…鶴見・神奈川・西・中・南
- Bブロック  
…港南・磯子・金沢・戸塚・栄
- Cブロック  
…保土ヶ谷・旭・泉・瀬谷
- Dブロック  
…港北・緑・青葉・都筑

## 実施報告

横浜消防出初式2014  
「みんなで作るヨコハマ防災マップワークショップ」

鶴見・南・港南・保土ヶ谷・磯子・金沢・港北・戸塚・泉・瀬谷の各区災害ボランティアネットワークのメンバーが参加し、横浜消防出初式 2014「みんなで作るヨコハマ防災マップワークショップ」に協力しました。

来場した参加者は、大きな地図に自宅や学校、避難場所をポストイットで貼り、避難する経路に災害時障害物となるものや活用できるものを書き込み、防災マップを作りました。

スタンプラリーの通過地点でもあり、多くの親子連れが防災マップづくりに参加しました。

ワークショップの様子



参加者のコメント（地図）



## 実施報告

## 災害ボランティア コーディネータースキルアップ研修

横浜市・横浜災害ボランティアネットワーク会議・横浜市社会福祉協議会の三者主催として、1月22日（水）に「災害ボランティア コーディネータースキルアップ研修」を開催しました。行政職員・各区災害ボランティアネットワーク会員など、132名が参加。

## 〈講義内容①〉

テーマ： 横浜市内の災害ボランティアの取組み状況について

講師： 河西英彦（横浜災害ボランティアネットワーク会議運営委員長）

内容： 横浜災害ボランティアネットワーク会議および各区災害ボランティアネットワークの現状や主な活動内容、横浜市内の災害ボランティアセンターについて説明。

## 〈講義内容②〉

テーマ： 災害時のボランティア活動と災害ボランティアセンター

講師： 桑原英文（Community Empowerment Office FEEL Do(フィールド)代表）

内容： これまでの自然災害の状況と災害ボランティアの活動について説明。

災害ボランティアセンターの意義や運営について、災害時の支援活動の基本や運営者として大切にすべき視点やポイント等について説明。

他都市の災害ボランティアセンターの実践について、DVDをもとに説明。

## 〈質疑応答・意見交換〉

参加者と桑原氏で「今後の災害時のボランティア活動や被災された方への支援について」をテーマに意見交換を実施。下記にいくつかの例を紹介。

意見①「横浜市のような都市の場合、道路が狭かったり、駐車場がなかったり等の事情もあり、災害ボランティアセンターとして事前選定が難しい。選定に必要な優先順位等はあるか？」



桑原氏「大都市の場合、様々な制約が出てくるのは実情としてある。公共施設という固定概念をなくし、企業の駐車場の借用や観光施設の活用等を検討の一つに入れても良いのでは。」

意見②「災害ボランティアセンターでのマスコミへの対応について、他都市の工夫等があれば教えてほしい。」



桑原氏「記者発表を毎日何時と決め、マスコミへの回答はすべて一括して対応した例もある。」



## 【桑原 英文氏】

Community Empowerment Office FEEL Do(フィールド)代表／支援者のための支援センターTOMONY共同代表  
【プロフィール(災害関連)】

阪神淡路大震災では、朝日新聞厚生文化事業団の朝日ボランティア基地チーフコーディネーターとして6ヶ月間被災者支援に従事した後、5年間に渡って兵庫県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター主事として復興支援などを担当。その後、数多くの被災地で支援活動を行い、東日本大震災においては、発生当初より災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(事務局:中央共同募金会)の幹事として、宮城県・福島県内の災害ボランティアセンターの運営支援を行う。現在、宮城県を中心に復興支援センターを通じた支援活動のサポートを継続している。